

# BBLセミナー プレゼンテーション資料

2025年1月30日

社会的インパクト評価から見たEBPM  
～WHYとWHATの重視～

SIMI(社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ)  
代表理事 今田 克司

# 社会的インパクト評価から見たEBPM ～WHYとWHATの重視～

Perspectives of EBPM from Social Impact Assessment  
- Focusing on the Why and What -

2025年1月30日

SIMI（社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ）

代表理事

今田 克司

# 自己紹介

今田 克司 (Katsuji Imata)

## <現職>

(一財) 社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ (SIMI)  
代表理事

(株) ブルー・マーブル・ジャパン代表取締役

(一財) CSOネットワーク常務理事

インパクト志向金融宣言 IMM企画担当

## <経歴>

### 1991-2000 サンフランシスコ・ベイ・エリア

大学院公共政策大学院修士(MPP)

米国でNPO (501c3団体) 創設。日米NPO交流、市民セクター強化に尽力

## <委員等 (現在) >

- 日本評価学会副会長、研修委員長、社会的インパクト評価分科会リーダー、発展的評価分科会
- 日本民間公益活動連携機構 (JANPIA) 評価アドバイザー
- インパクト・コンソーシアム データ・指標分科会座長
- 中小企業庁 地域の社会課題解決企業支援のためのエコシステム構築実証事業 伴走専門家

## 2000-07 東京

CSO連絡会・ネットワーク 日米コモンアジェンダの枠組みでNGO協力推進、NGO政策環境整備のための調査、貧困をなくすNGOキャンペーン等

## 2007-13 ヨハネスブルク (南アフリカ)

国際NGO CIVICUS (市民社会強化のグローバル・ネットワーク) 事務局次長、SDGs策定にむけたCSOインプットのコーディネート役等

## 2013-現在 東京

セクターを超えてインパクト・マネジメントや評価 (発展的評価) の普及、利活用に尽力

2016 SIMI創設コアメンバーの一人、2020年法人化とともに代表理事

2020 株式会社ブルー・マーブル・ジャパン設立

2020-23 金融庁・GSG主催「インパクト投資に関する勉強会」委員、経済産業省「インパクトスタートアップ選定に関する検討会」メンバー、GSG国内諮問委員会「インパクトIPOワーキンググループ」委員、等

- 国際協力機構 (JICA) 事業評価外部有識者委員会委員
- UNDP SDGインパクト基準 (企業・事業体版) 認定トレーナー
- Blue Marble Evaluation Advisory Council 委員
- B Lab (B Corp 認証を司る米国非営利団体) Regional Standards Advisory Group - Asia 委員。

# 本日の構成

1. はじめに：杉谷氏基調講演からみるEBPMへの視座
2. 「HOW の前に WHY と WHAT を問う」とは？
3. 社会的インパクト評価と社会的インパクト・マネジメント
4. 社会的インパクト・マネジメントから見たエビデンスとEBPM
5. おわりに：エビデンス for what? for whom?

(参考) 「社会的インパクト評価」の2つの系譜 (日本評価学会  
社会的インパクト評価分科会まとめ)

# 1. はじめに：杉谷氏基調講演からみるEBPMへの視座

「政策にエビデンスは必要なのか？」

杉谷 和哉氏

RIETI EBPM シンポジウム

2023年9月8日(金)

講演資料より

## 政策評価をめぐる同床異夢

- 国の政策評価と自治体の政策評価の食い違い
- 米国の行政活動検査員(GAO)も念頭に
- 府省の評価はマネジメントではなく、政策それ自体の改善に着目  
→今日のEBPMに繋がる発想

講演動画より

「ここ20年来の政策を合理化しようとする試みの到達点としてのEBPM」

国の政策評価	自治体の政策評価
政策効果の評価	政策のマネジメントの改善のための評価
GAO型 = プログラム評価	NPMの潮流をもとにした業績測定 =>こちらが主流に

理念的な  
つながり

今日のEBPMの流れ

実務上の要請

無理が生じる？生じている？

## 2. 「HOW の前に WHY と WHAT を問う」とは？

インパクト投資小史からひもとく

(1)インパクト投資における「意図」の役割



### Global Impact Investing Network(GIIN)

- GIINは、2009年創設の、インパクト投資の世界的な推進主体であり、世界中でインパクト投資の規模と効果を高めることを目的としているネットワーク組織。
- インパクト投資家のネットワークを形成して知識交換を促進し、革新的な投資アプローチに着目し、業界のエビデンスベースを構築し、**価値あるツールやリソースを作成する。**GIINは、集中的なリーダーシップと集団行動を通じて業界の発展を加速させることを目指している。

## 2. 「HOW の前に WHY と WHAT を問う」とは？

### インパクト投資小史からひもとく

#### (1)インパクト投資における「意図」の役割

GIINによる「インパクト投資」の

#### 定義

金銭的なリターンと並行して、ポジティブで測定可能な社会的・環境的インパクトを生み出すことを意図して行われる投資

#### 中核的特徴

インパクト投資が信頼に足るマーケットとして育つために、2019年、GIINが関連投資家とともにこれから参入しようとする投資家への期待、または参加要件としてまとめたもの。

インパクト投資を行う投資家は、

1. ポジティブな社会的・環境インパクトに意図をもって貢献する。
2. 投資設計において、エビデンスとインパクトデータを活用する。
3. インパクトの創出状況（impact performance）をマネジメントする。
4. インパクト投資の成長に貢献する。

投資家の**意図（intention, intentionality）**がインパクト投資の中心にある

期待または参加要件に、「インパクト投資の成長に貢献する」が入っているのは注目すべき。**新たな市場形成をともに担うアクターを増やしたいという意向のあらわれ。**

<https://thegiin.org/characteristics>  
[https://thegiin.org/assets/Core%20Characteristics\\_webfile.pdf](https://thegiin.org/assets/Core%20Characteristics_webfile.pdf)

## 2. 「HOW の前に WHY と WHAT を問う」とは？

### インパクト投資小史からひもとく

### (2) Impact Measurement から Impact Measurement & Management (IMM) への進化～Skopos Impact FundとBridges Impact+の例



先進国市場においては、低所得者やその他のマイノリティの問題に30%、残りの70%は新興国市場（主にケニア、ブラジル、バングラディシュ）へインパクト投資を行っているインパクトファンド。



英国を拠点とする大手インパクト投資ファンドマネージャーであるBridges Fund Management Ltd. (旧 Bridges Ventures (Bridges)) のコンサルティング部門。インパクト投資に関する研究開発活動を行っている。

“ファンドを立ち上げたとき、そのアプローチは、教育など、直感的にインパクトをそうなセクターに投資すればよいと思い、利用可能な様々なインパクト測定方法を調べることから始めました。しかし、インパクトの観点からファンドがどの程度のパフォーマンスを発揮しているかについて、意味のある結論を出すのは難しいことがわかり（中略）**私たちの課題は、測定そのものではなく、成功がどのようなものであるか (what success looks like) を明確にしていないことだと気付きました。”**

MORE THAN MEASUREMENT: A Practitioner's Journey to Impact Management (2016)  
<https://www.bridgesfundmanagement.com/wp-content/uploads/2017/02/Bridges-Skopos-More-than-Measurement-print-view.pdf>MORE



GSG国内諮問委員会  
2020年度IMMワーキンググループ  
第1回会合資料（2020年9月25日）より

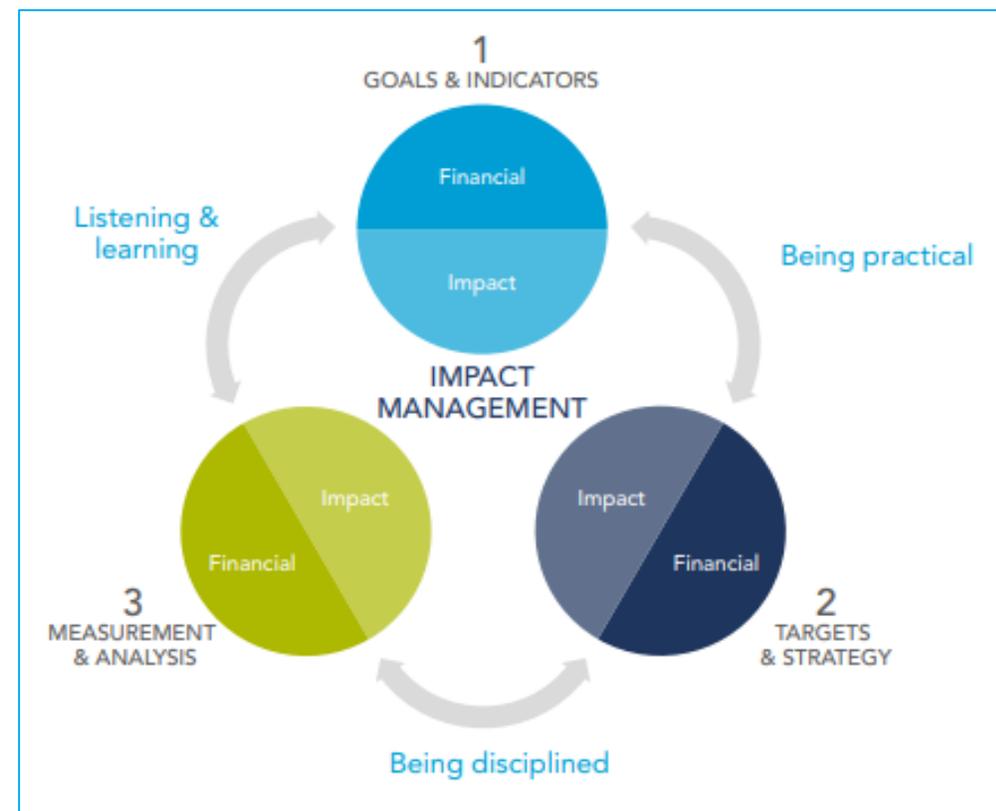
## 2. 「HOW の前に WHY と WHAT を問う」とは？

### インパクト投資小史からひもとく

(2) Impact Measurement から Impact Measurement & Management (IMM) への進化～Skopos Impact FundとBridges Impact+の例 (つづき)

“伝統的な投資において、パフォーマンスは通常、投資家の**基本的な目標**（流動性、財務リスク、財務リターン）を反映しているかどうかに応じて決定されます。同様のロジックをインパクト・パフォーマンスに適用することで、Skoposのインパクト・ゴールを十分に理解することが出発点となりました。**その結果、インパクトマネジメントのアプローチが生まれましたが、その中で測定は重要な一部分にすぎません。**”

インパクト・マネジメント  
= フィードバック・ループのある、反復的(iterative)なプロセス



# 2. 「HOW の前に WHY と WHAT を問う」とは？

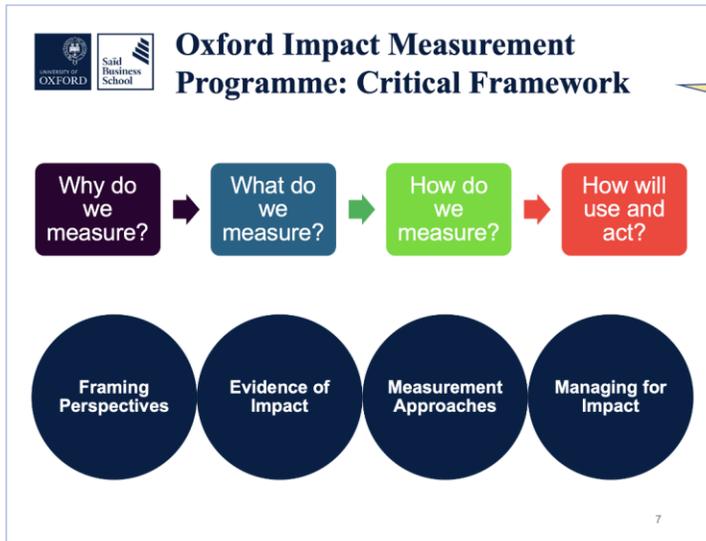
インパクト投資小史におけるIMMの出現と政策評価の流れに一種の平行が見える？

インパクト投資から出てきた「評価」の要請

WHY and WHAT なんのためになにを測るか	HOW いかに測るか
<主要な問い>	
いかなる意図でなに（アウトカム）を達成しようとしているのか？	いかに投資家の意思決定に役立つインパクト情報を抽出するか？
<活用できる評価体系>	
プログラム評価型？	業績測定型？
<つけられた名称>	
IMM (Impact Measurement and Management)	Impact Measurement

## IMMの進展～How の前にWhy&Whatを問え。そしてふたたびHowへ

11/20/2020金融庁・GSG国内諮問委員会共催「インパクト投資に関する勉強会」  
 Karim Harji 氏 (Programme Director, Oxford Impact Measurement Programme)  
 IMM: Trends, Approaches and Prospects 発表



(当日のメッセージ)  
How の前に  
Why & What を問え

IMMの普及と定着

(その後の展開)  
Why & What から  
ふたたび How へ

←当初の気づき

今日の要請→

Impact Performance

# 3. 社会的インパクト評価と社会的インパクト・マネジメント

## 内閣府の定義

### **社会的インパクト：**

短期、長期の変化を含め、当該事業や活動の結果として生じた社会的、環境的なアウトカム

### **社会的インパクト評価：**

社会的インパクトを定量的・定性的に把握し、当該事業や活動について価値判断を加えること

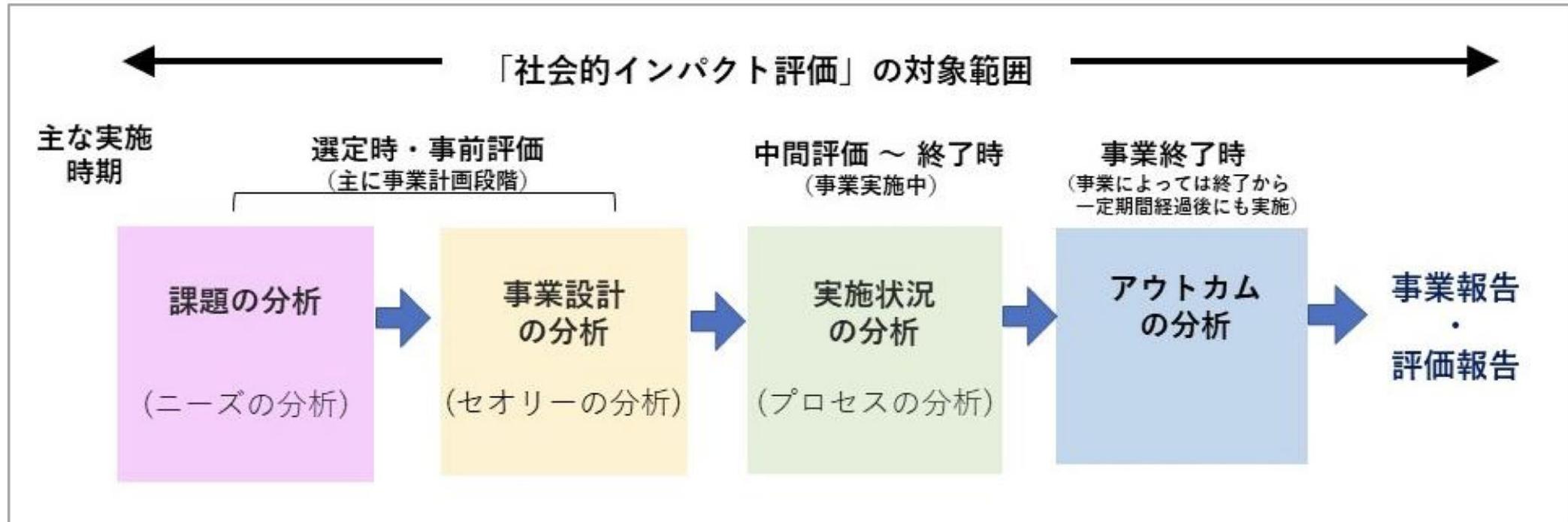
左記に従えば、「社会的インパクト評価」とは、以下となる。

短期、長期の変化を含め、当該事業や活動の結果として生じた社会的、環境的なアウトカムを定量的・定性的に把握し、当該事業や活動について価値判断を加えること

# 3. 社会的インパクト評価と社会的インパクト・マネジメント

## 休眠預金等活用事業における「社会的インパクト評価」

図表 3-2 : 社会的インパクト評価の体系



# 3. 社会的インパクト評価と社会的インパクト・マネジメント

## SIMI「社会的インパクト・マネジメント・ガイドライン」と「アウトカム指標データベース」の紹介

### 「社会的インパクト・マネジメント」の定義

事業や取り組みがもたらす変化や価値に関する情報を、各種の意思決定や改善に継続的に活用することにより、社会的インパクトの向上を目指す体系的な活動

※社会的インパクトの向上には、事業や取り組みによって質的・量的に表現される正の社会的インパクトを向上させることと、負の社会的インパクトを低減させることが含まれます。

### 社会的インパクト・マネジメントの目的

#### 意思決定と改善

事業や取り組みがもたらす変化や価値に関する学びを得ることで、よりよい意思決定や改善を生み出していくこと

#### 参加・協働の促進

さまざまなステークホルダーが目的に応じて事業や取り組みの進捗状況や社会的インパクトに関する情報を入手し、意思決定や改善のプロセスに参加すること

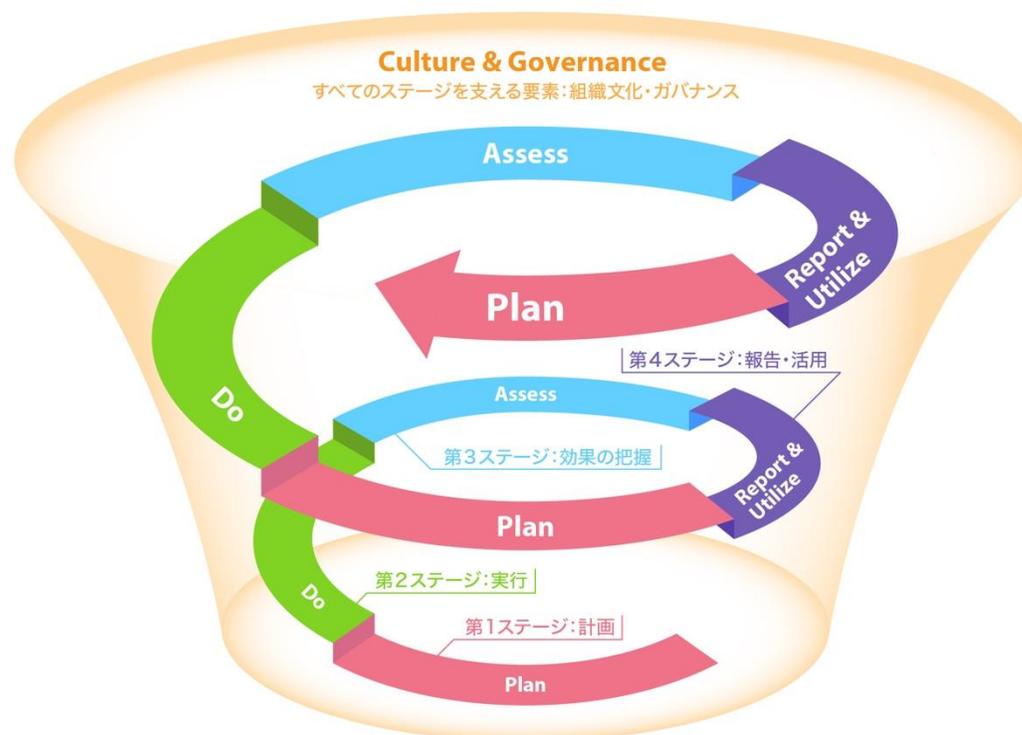
#### 課題解決・価値創造への貢献

社会課題解決や社会価値創造を進展させ、またそのための知見の蓄積に貢献すること

# 3. 社会的インパクト評価と社会的インパクト・マネジメント

## SIMI「社会的インパクト・マネジメント・ガイドライン」と「アウトカム指標データベース」の紹介

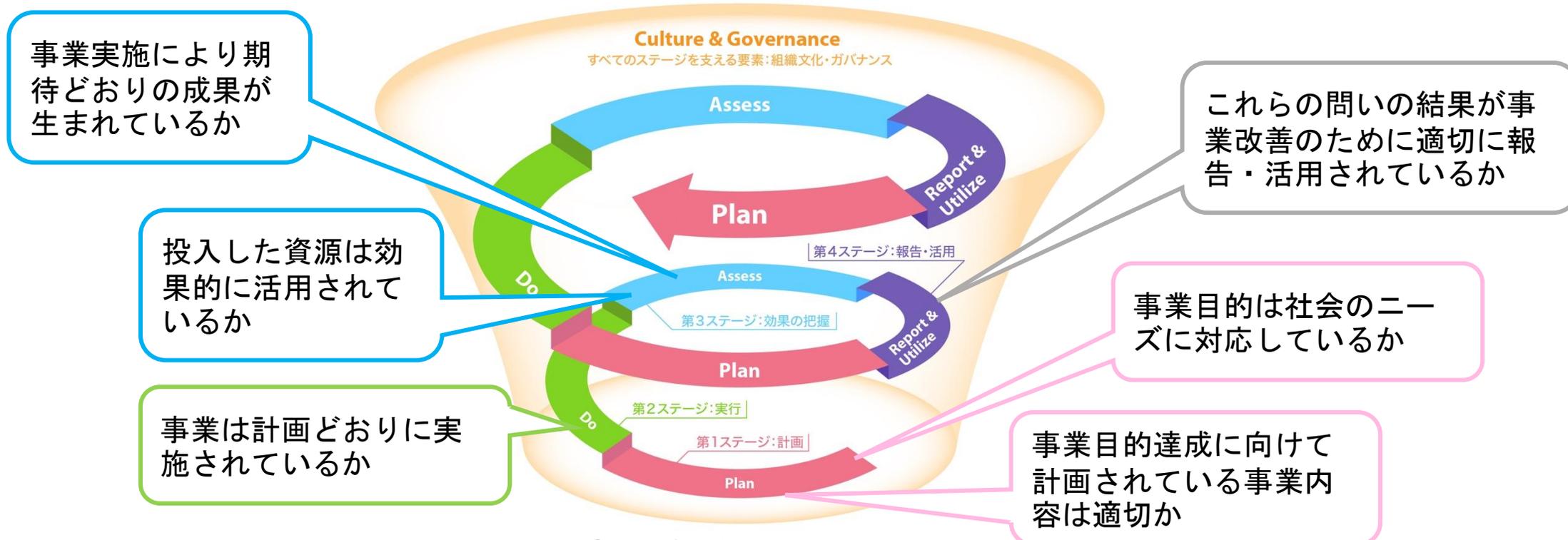
社会的インパクト・マネジメントは「インパクト・マネジメント・サイクル」を回し、そこに評価の諸作業を組み込むことで、実践が可能になると考えます。インパクト・マネジメント・サイクルは、事業を運営する際のマネジメント・サイクルの一種で、以下の4つのステージとそれを支える1つの要素から構成されます。



# 3. 社会的インパクト評価と社会的インパクト・マネジメント

## SIMI「社会的インパクト・マネジメント・ガイドライン」と「アウトカム指標データベース」の紹介

社会課題解決や社会価値創出を目的とする単一または複数の事業や取り組みが、社会全体や事業対象者のニーズに合致するよう設計・実施され、目的どおり社会的インパクトを生み出してゆくためには、事業の設計のロジックや実施プロセスの妥当性、成果などに関する例えば次のような「社会的インパクト評価」の問いに答えてゆくことが必要です。



# 3. 社会的インパクト評価と社会的インパクト・マネジメント

## SIMI「社会的インパクト・マネジメント・ガイドライン」と「アウトカム指標データベース」の紹介



### アウトカム・指標・測定方法の選定

アウトカムは、自団体が事業において生み出したい変化・便益・成果です。本来は活動ごとに自ら設定するものですが、参考としてアウトカムのデータベースを作成しました。併せて、アウトカムを測るための指標および指標を測定するための測定方法を掲載しました。ただし、データベースにあるアカウント・指標・測定方法は、あくまでも例示であり、当該分野における標準的・包括的なアウトカム・指標・測定方法を意図するものではありません。

- ・本データベースは、（一財）社会変革推進財団（SIIF）からのご支援を活用し、クレジットに掲載されている多くの方のご協力のもと作成されました。本データベースは一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブの責任のもとに管理されています。
- ・本データベースを商業利用される場合は、当法人（info@simi.or.jp）までご一報ください。（非営利活動や個人の活動等については無償利用が可能です。）
- ・本データベースの活用事例を募集しております。事業評価、マネジメント、評価ツール等で活用された場合は、info@simi.or.jpまでご連絡ください。掲載許可をいただける場合、当法人のウェブサイトでご紹介させていただきます。
- ・活用事例を報告書等で公表される場合は出典として「一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブアウトカム指標データベース」と記載をお願いします。

12分野でロジックモデルを含む「ツールセット」とアウトカム指標の一覧を掲載。

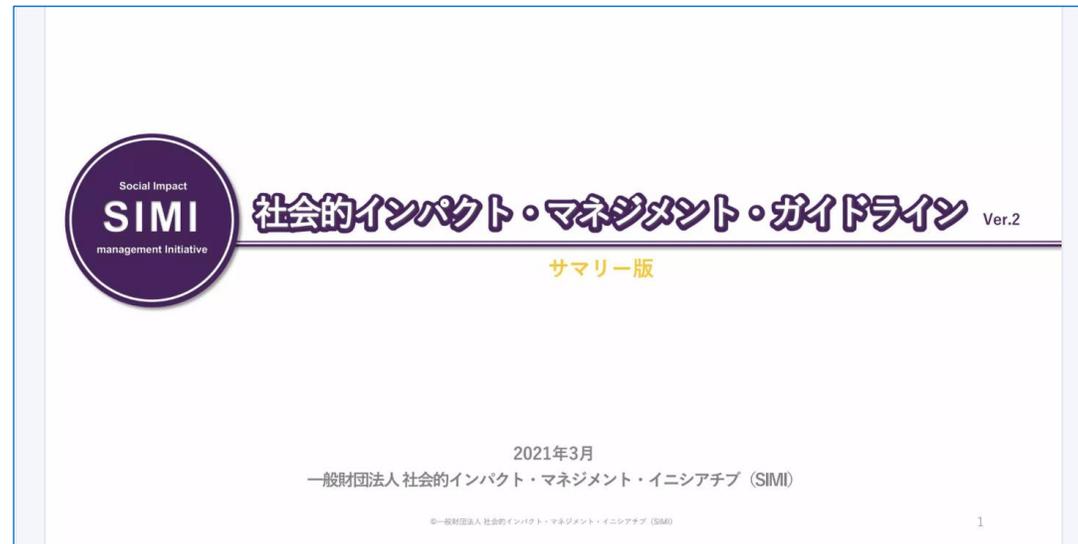
### ツールセット

- [社会的インパクト評価ツールセット 実践マニュアル Ver. 2.0 \(2017年6月公開\)](#)
- [社会的インパクト評価ツールセット 教育 Ver. 2.0 \(2017年6月公開\)](#)
- [社会的インパクト評価ツールセット 就労支援 Ver. 1.0 \(2016年6月公開\)](#)
- [社会的インパクト評価ツールセット 地域まちづくり Ver. 1.5 \(2017年6月公開\)](#)
- [社会的インパクト評価ツールセット 環境教育 Ver. 1.0 \(2017年6月公開\)](#)
- [社会的インパクト評価ツールセット 文化芸術 Ver. 1.0 \(2017年6月公開\)](#)
- [社会的インパクト評価ツールセット 福祉（介護予防） Ver. 1.0 \(2018年6月公開\)](#)
- [社会的インパクト評価ツールセット 子育て支援 Ver. 1.0 \(2018年6月公開\)](#)
- [社会的インパクト評価ツールセット 防災 Ver. 1.0 \(2018年6月公開\)](#)
- [社会的インパクト評価ツールセット ホームレス支援 Ver. 1.0 \(2019年7月公開\)](#)
- [社会的インパクト評価ツールセット スポーツ Ver. 1.0 \(2019年7月公開\)](#)
- [社会的インパクト評価ツールセット ヘルスケア Ver. 1.0 \(2019年7月公開\)](#)
- [社会的インパクト評価ツールセット ソーシャル・キャピタル Ver. 1.0 \(2019年7月公開\)](#)

# 3. 社会的インパクト評価と社会的インパクト・マネジメント

## SIMI「社会的インパクト・マネジメント・ガイドライン」と「アウトカム指標データベース」の紹介

WHY and WHAT なんのためになにを測るか
<主要な問い>
いかなる意図でなに（アウトカム）を達成し、それを事業改善につなげるのか？
<活用できる評価体系>
プログラム評価型
<つけられた名称>
Social Impact Management



マネジメントの一場面  
で役立てるもの



ツールセット

# 3. 社会的インパクト評価と社会的インパクト・マネジメント

## SIMI「社会的インパクト・マネジメント・ガイドライン」と「アウトカム指標データベース」の紹介

### 12分野の「ツールセット」(再掲)

[社会的インパクト評価ツールセット 実践マニュアル Ver. 2.0 \(2017年6月公開\)](#) 

[社会的インパクト評価ツールセット 教育 Ver. 2.0 \(2017年6月公開\)](#) 

[社会的インパクト評価ツールセット 就労支援 Ver. 1.0 \(2016年6月公開\)](#) 

[社会的インパクト評価ツールセット 地域まちづくり Ver. 1.5 \(2017年6月公開\)](#) 

[社会的インパクト評価ツールセット 環境教育 Ver. 1.0 \(2017年6月公開\)](#) 

[社会的インパクト評価ツールセット 文化芸術 Ver. 1.0 \(2017年6月公開\)](#) 

[社会的インパクト評価ツールセット 福祉\(介護予防\) Ver. 1.0 \(2018年6月公開\)](#) 

[社会的インパクト評価ツールセット 子育て支援 Ver. 1.0 \(2018年6月公開\)](#) 

[社会的インパクト評価ツールセット 防災 Ver. 1.0 \(2018年6月公開\)](#) 

[社会的インパクト評価ツールセット ホームレス支援 Ver. 1.0 \(2019年7月公開\)](#) 

[社会的インパクト評価ツールセット スポーツ Ver. 1.0 \(2019年7月公開\)](#) 

[社会的インパクト評価ツールセット ヘルスケア Ver. 1.0 \(2019年7月公開\)](#) 

[社会的インパクト評価ツールセット ソーシャル・キャピタル Ver. 1.0 \(2019年7月公開\)](#) 

### 一例

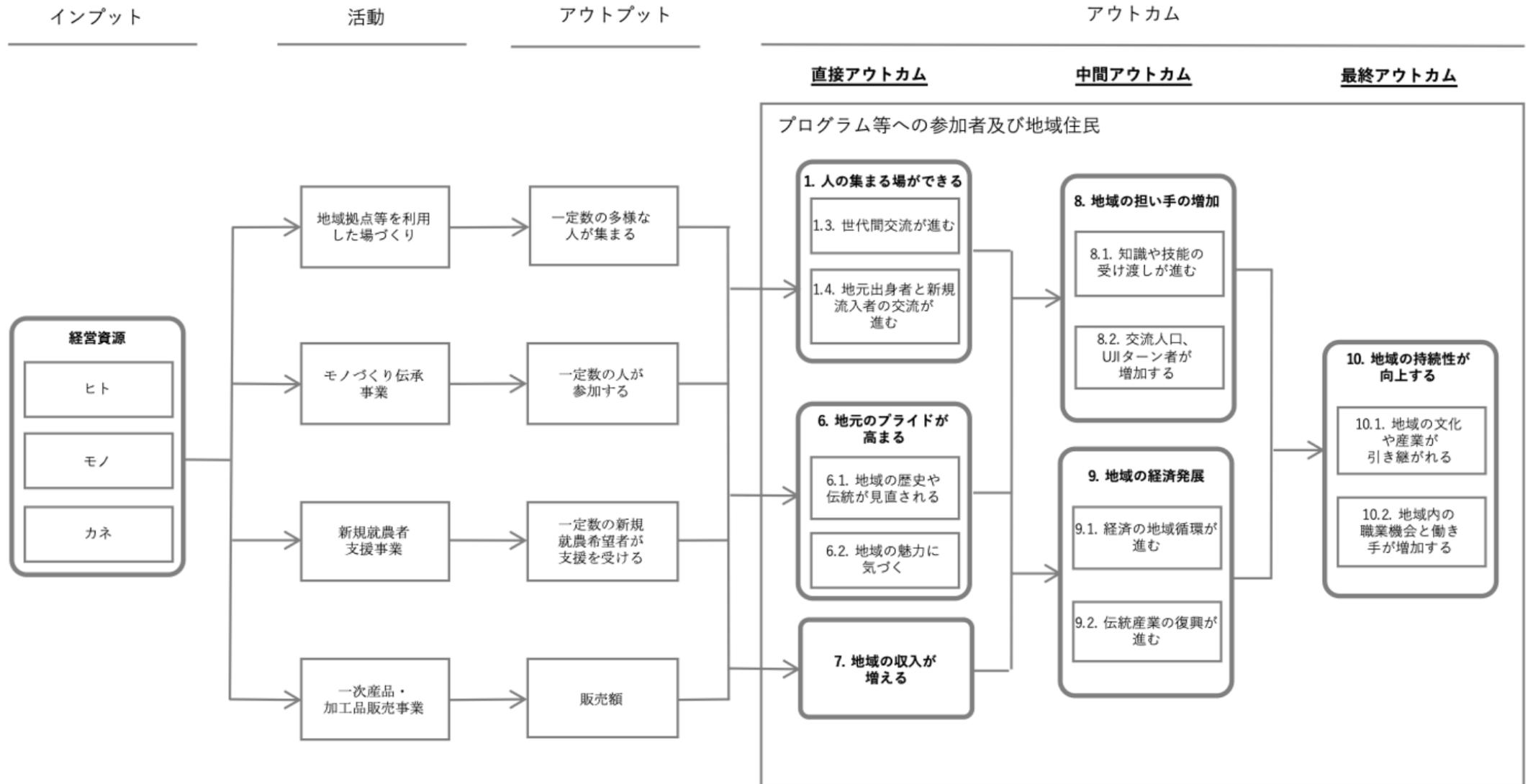
図表1：地域・まちづくりの2類型における大きなロジック

	(類型1) 都市圏における住民主体のまちづくり	(類型2) 持続可能な中山間地域づく
課題	住人はいるが地域内での交流や地域課題に関する話し合いの場がない	地域に経済基盤がなく、人口の流出が止まらず、少子高齢化、過疎化に悩まされている
中期 アウトカム	地域のソーシャルキャピタルが増大する	・地域の担い手の増加(ヒト) ・地域の経済発展(カネ)
長期 アウトカム	地域の活性化が進む	地域の持続性が向上する
活動例	・幅広い世代の地域住民を対象としたコミュニティカフェの運営 ・まちづくりに関する様々なイベントや講座の開催 ・街の情報を発信するフリーペーパーの発行	・特産品加工推進事業、販売事業 ・生きがい文化事業(竹細工、陶芸など)

# 3. 社会的インパクト評価と社会的インパクト・マネジメント

一例（つづき）

図表3：地域・まちづくりのロジックモデル（類型2 持続可能な中山間地域づくり）



# 3. 社会的インパクト評価と社会的インパクト・マネジメント

## 一例（つづき）

図表8：アウトカム指標の一覧（類型2 持続可能な中山間地域づくり）

ステークホルダー	アウトカムの種類	アウトカムのカテゴリ	詳細アウトカム	指標
プログラム等への参加者及び地域住民	直接アウトカム	1. 人の集まる場ができる	1.3 世代間交流が進む	異なる世代の友人・知人が増加した人の数、割合
プログラム等への参加者及び地域住民	直接アウトカム	1. 人の集まる場ができる	1.4 地元出身者と新規流入者の交流が進む	地元出身者と新規流入者が交流する場の開催数と参加者数
プログラム等への参加者及び地域住民	直接アウトカム	6. 地元のプライドが高まる	6.1. 地域の歴史や伝統が見直される	文化遺産の保存継承の程度
プログラム等への参加者及び地域住民	直接アウトカム	6. 地元のプライドが高まる	6.2. 地域の魅力に気づく	地域に魅力を感じる人の数、割合
プログラム等への参加者及び地域住民	直接アウトカム	7. 地域の収入が増える	7. 地域の収入が増える	地域別年間商品販売額

ステークホルダー	アウトカムの種類	アウトカムのカテゴリ	詳細アウトカム	指標
プログラム等への参加者及び地域住民	中間アウトカム	8. 地域の担い手の増加	8.1. 知識や技能の受け渡しが進む	地域資源の普及・教育・共有が盛んであると考える人の割合
プログラム等への参加者及び地域住民	中間アウトカム	8. 地域の担い手の増加	8.2. 交流人口、UJIターナーが増加する	観光交流客数
プログラム等への参加者及び地域住民	中間アウトカム	8. 地域の担い手の増加	8.2. 交流人口、UJIターナーが増加する	他の地域から移ってくる人が増えたと感じる人の割合
プログラム等への参加者及び地域住民	中間アウトカム	9. 地域の経済発展	9.1. 経済の地域循環が進む	地域経済循環率
プログラム等への参加者及び地域住民	中間アウトカム	9. 地域の経済発展	9.2 伝統産業の復興が進む	伝統産業において新たに開発、もしくは復刻した商品の数、売上

# 3. 社会的インパクト評価と社会的インパクト・マネジメント

金融庁「ソーシャルボンドガイドライン」付属書 4 にも同様の試みが見られる。

例⑤

## インパクトに至る過程及び指標等の例

高齢者福祉・介護サービスの提供、高齢者福祉施設（介護施設、医療施設、住宅施設、文化施設を含む）の提供、介護支援サービス/施設の提供

社会的課題	働き方改革とディーセントワークの実現、女性の活躍推進、高齢社会への対応
社会的な目標	高齢者向けヘルスケア施設・サービスの提供や既存施設における設備投資・運営改善により、高齢社会への対応を進め、仕事と介護の両立とディーセントワークの実現並びに女性の活躍推進に貢献する。

働き方改革とディーセントワークの実現  
女性の活躍推進、高齢社会への対応



ロジックモデルで課題ごとのアウトカム・インパクト、対応する指標を提示

金融庁（2022）「ソーシャルプロジェクトの社会的な効果に係る指標等の例」  
<https://www.fsa.go.jp/news/r4/singi/20220715.html>

# 3. 社会的インパクト評価と社会的インパクト・マネジメント

金融庁「ソーシャルボンドガイドライン」付属書 4 にも同様の試みが見られる。

	社会的課題	ソーシャルプロジェクト(注)	頁
例①	ダイバーシティの推進・女性の活躍推進	教育/職業訓練プログラム、キャリアアップのためのプログラム、能力開発プログラム、事業支援プログラムの提供	8
例②	ダイバーシティの推進、あらゆる人々の教育機会の確保	教育/職業訓練プログラム、キャリアアップのためのプログラム、能力開発プログラム、事業支援プログラムの提供	11
例③	ダイバーシティの推進、バリアフリーの推進、健康・長寿の達成	障がい者を対象にしたスポーツ・レジャー機会の提供、バリアフリー/ジェンダーフリー施設・設備の整備、ユニバーサル対応の推進、健康増進や病気予防を目的としたプログラムの提供	14
例④	子育てと仕事を両立しやすい社会の実現、ダイバーシティの推進・女性の活躍推進	保育/子育て支援サービス/施設の提供	17
例⑤	働き方改革とディーセントワークの実現、女性の活躍推進、高齢社会への対応	高齢者福祉・介護サービスの提供、高齢者福祉施設(介護施設、医療施設、住宅施設、文化施設を含む)の提供、介護支援サービス/施設の提供	20
例⑥	バリアフリーの推進	バリアフリー/ジェンダーフリー施設・設備の整備、ユニバーサル対応の推進	23
例⑦	子どもの貧困対策推進・あらゆる人々の教育機会の確保	経済的に困窮する子どものための教育・福祉に係るプロジェクトの実施	26
例⑧	責任ある企業行動の促進	人権と企業責任(安全、賄賂・腐敗防止、公正な労働慣行、子どもの権利等)に関する研修プログラムの提供	29
例⑨	健康・長寿の達成(高齢社会への対応含む)	健康・医療分野でのICT活用(遠隔医療システムの導入等)に係るプロジェクトや投融資	32
例⑩	健康・長寿の達成(高齢社会への対応含む)、ダイバーシティの推進、バリアフリーの推進	健康増進や病気予防を目的としたプログラムの提供	35
例⑪	企業による新型コロナウイルス感染症対策(経済的影響への対応含む)	企業・施設・店舗等の感染症対策(検温機器導入、感染防止のための備品の取得等)、感染症拡大による経済的影響を受けた中小企業等への支援	38
例⑫	地方創生・地域活性化	地域の就労支援・雇用創出支援、地域の中小企業の成長促進・支援のための投融資	41
例⑬	地方創生・地域活性化	地域の生活インフラ・サービスの向上(地理的条件不利地域におけるICT環境の整備等)	44
例⑭	持続可能で強靱な国土(防災・減災対策、インフラ老朽化対策)	防災・減災対策を施した施設の建築、災害時における避難場所・物資の提供、持続可能なまちづくりの推進事業	47
例⑮	住宅確保要配慮者向けの住居支援	住宅確保要配慮者向けの手ごろで一定の質が確保された住宅の建築・改築・改修	50
例⑯	食品廃棄物・食品ロスの削減とリサイクル/国際協力(発展途上国の食料安全保障と栄養改善の達成)	食料の生産から流通までの過程(サプライチェーン)での食品ロス・廃棄問題への取組に係るプロジェクト	53
例⑰	持続可能な生産・消費の促進	持続可能な生産や農業慣行に関する指導/アドバイスや支援プログラムの提供	56

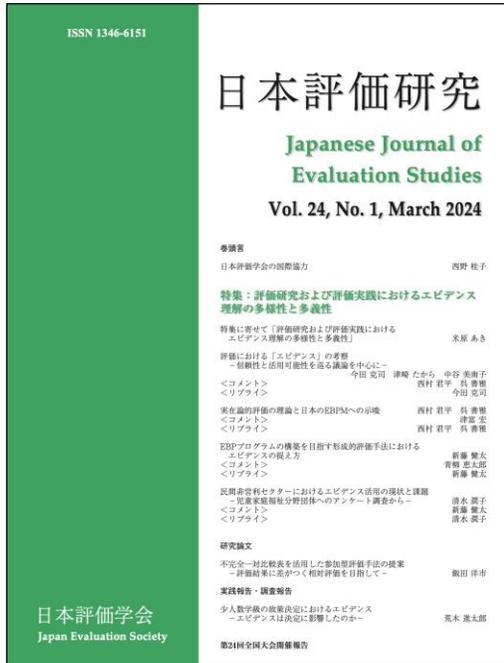
社会的課題の一覧

金融庁(2022)「ソーシャルプロジェクトの社会的な効果に係る指標等の例」  
<https://www.fsa.go.jp/news/r4/singi/20220715.html>

(注)各例のソーシャルプロジェクト名は、一部を除き、ソーシャルボンドガイドライン付属書2「ソーシャルプロジェクト(具体的な資金使途)の例」に例示したソーシャルプロジェクト(具体的な資金使途)に紐づける形で記載しており、本付属書の「インパクトに至る過程及び指標等」に記載のプロジェクト内容は必ずしもこれらに限定されない。

# 4. 社会的インパクト・マネジメントから見たエビデンスとEBPM

## 評価研究におけるエビデンス議論（一例）



### 今田・津崎・中谷のおもな主張

- エビデンスに関しては、信頼性の精度を上げる技術や分析手法の開発が進んでいる一方で、特にその活用を視野に入れた多面性に関する考察が不十分である。
- 筆者らは、エビデンス概念に関しては、信頼性とともに関与可能性の考察が少なくとも同等程度以上に必要だと考える。…いくら信頼性の高いエビデンスが得られたとしても、それが新たな政策決定やプログラム・事業の設計に正しく活用されなければ、EBPMは成立せず、社会の改善活動につながらないからである。…このエビデンスの活用に焦点をあてた視点が、エビデンスの活用可能性(actionability)である。
- エビデンスの活用可能性は、その度合いが徐々に高まるものというのではなく、実践現場においてエビデンスが活用されるためには「閾値」があり、その境界線を超えているかという発想で捉えられる。そのためには、以下四つの側面の観点から、エビデンスの質が担保されている必要がある。
  - エビデンスの信頼性(Credibility)とは、従来からのエビデンスを巡る議論の中心にある、エビデンスが真理の論拠として、信頼に値するかという視点のことを指す。
  - エビデンスの推論効力(Inferential Potency)とは、特定のエビデンスが主張や仮説をどれだけ強く根拠付けているかということであり、エビデンスの効力の強さや決定力を示す。信頼性の高いエビデンスであっても、結果を推論するための信頼区間が広かったり結果があいまいだったりしてエビデンスの推論効力が低いと、活用可能性が下がってしまう。
  - エビデンスの関連性(Relevance)とは、エビデンスを活用する側にとって、抽出されたエビデンスが個別具体の意思決定に対してどの程度の関連性が確保され得るかに着目するものである。
  - エビデンスの網羅性(Comprehensiveness)とは、回答が必要とされている設問に対して、エビデンスがどの程度網羅的に応えられているかである。

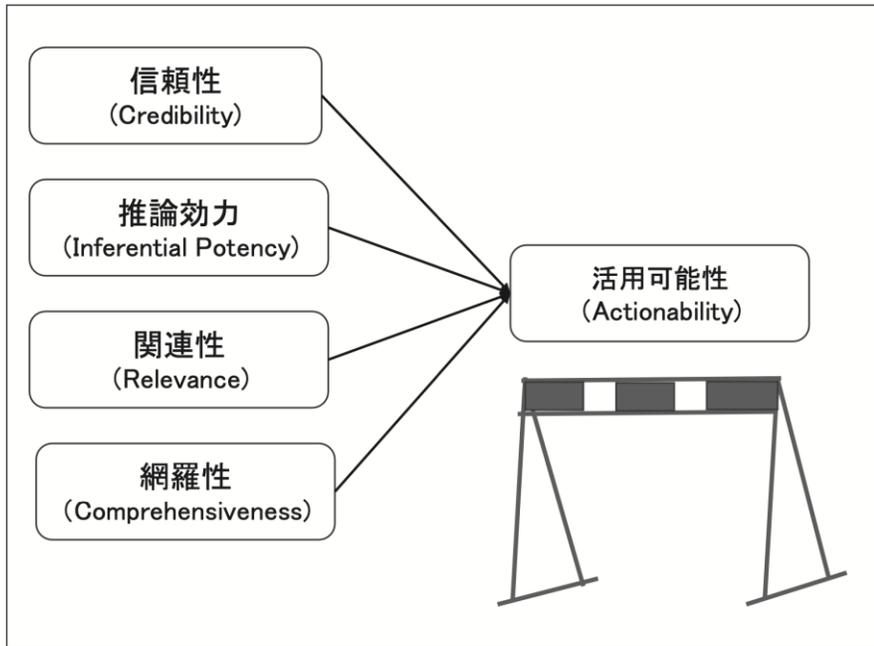
今田、津崎、中谷（2024）「評価における「エビデンス」の考察 -信頼性と活用可能性を巡る議論を中心に-」

日本評価学会『日本評価研究』  
第24巻第1号, pp.7-22

# 4. 社会的インパクト・マネジメントから見たエビデンスとEBPM

## エビデンスの活用可能性と社会的インパクト・マネジメント

図3 エビデンスの活用可能性の概念的枠組み



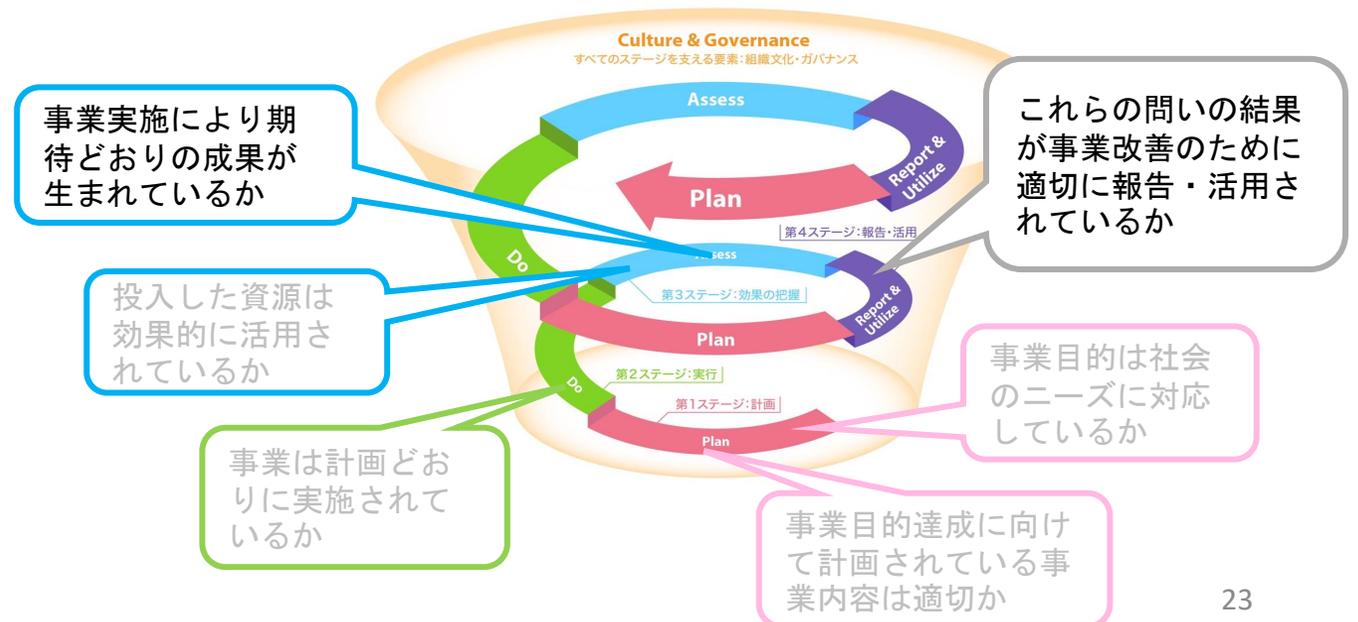
(出所) Mark (2015, p.279)

今田、津崎、中谷 (2024) 「評価における「エビデンス」の考察 - 信頼性と活用可能性を巡る議論を中心に - 」 日本評価学会『日本評価研究』 第24巻第1号, p.13.

社会的インパクト・マネジメント実践の際に答えようとする「社会的インパクト評価」の問い



エビデンスの構築、統合とともに、その活用に力点を置いている



事業実施により期待どおりの成果が生まれているか

投入した資源は効果的に活用されているか

事業は計画どおりに実施されているか

事業目的達成に向けて計画されている事業内容は適切か

これらの問いの結果が事業改善のために適切に報告・活用されているか

事業目的は社会のニーズに対応しているか

# 5. おわりに：エビデンス for what? for whom?

## ②EBPMの基本構造

- i. エビデンスの構築：  
RCT (randomized controlled trials) を主軸とした科学的手法を適用して政策の効果を明らかにしたエビデンスを構築
- ii. エビデンスの統合：  
SRにより系統的かつ明示的な方法でエビデンスを統合
- iii. エビデンスの活用：  
統合されたエビデンスを新規の政策の形成の手がかりとして活用

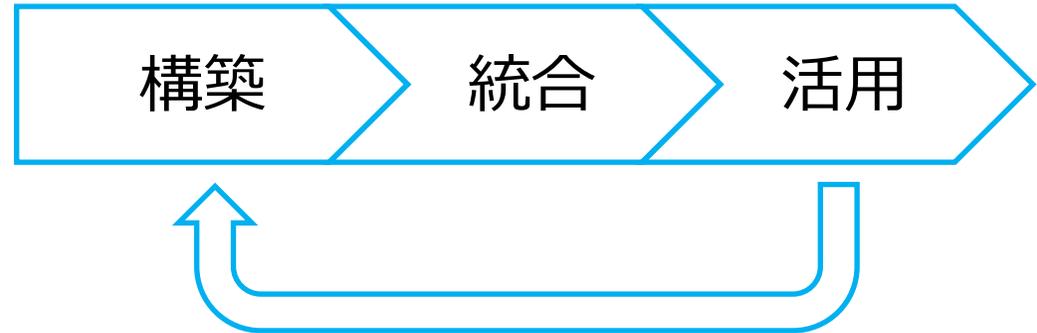
※ Baron(2019) を参考に定義

※ 本報告は社会プログラムや教育プログラムもEBPMの対象に含むとみなしている。  
厳密に言えば、このような認識の場合にはEBPs(Evidence-Based Practices)と呼ぶべきかもしれない。

「エビデンスの構築」のあり方が見直されているにも関わらず、「エビデンスの統合」には目立った変化がないままである。このままでは「エビデンスの活用」も十分に進められない。

西村君平「不確実性に適応的なシステムティックレビュー：  
RAMESESプロジェクトを中心に」  
日本評価学会第25回大会（2024年12月21日）  
発表資料より

## エビデンスの



<何のために？>  
よりよい政策決定？  
よりよいとは？

<誰のために？>  
<誰にとって？>  
政策決定者？  
政策策定者？  
施策・事業の企画・実施者？  
施策・事業の対象・受益者？  
社会全体？

# 5. おわりに : エビデンス for what ? for whom?

## Project Evident

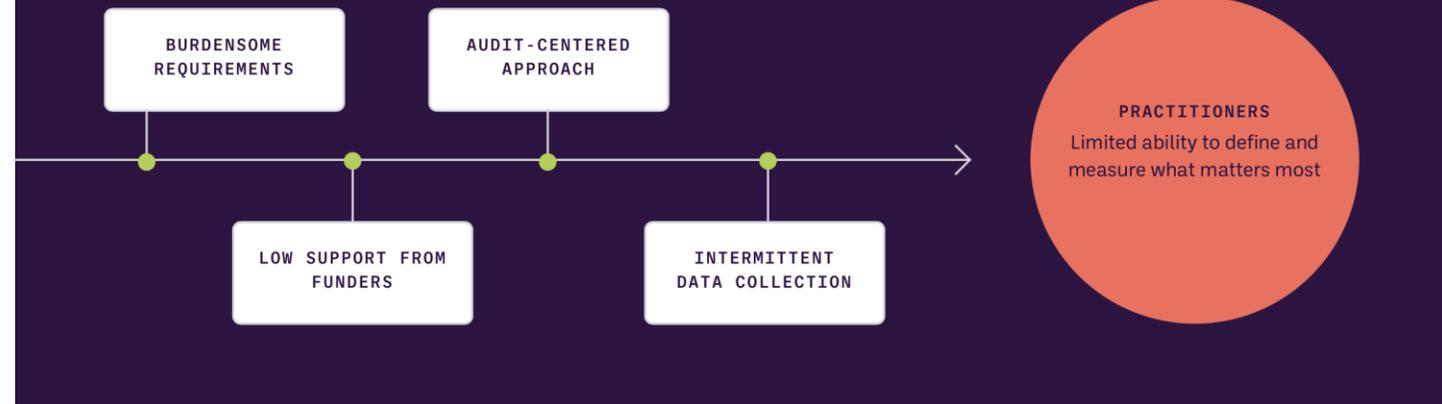


<何のために？>  
より equitable な  
教育事業推進

<誰のために？>  
<誰にとって？>  
施策・事業の企画・実施者  
施策・事業の対象・受益者

### The status quo in evidence building is holding us back

For too long, practitioners—the leaders and program staff at nonprofits, school districts, and public agencies—have been asked to provide evidence that doesn't match up with what they need to learn in order to improve outcomes.



2020年に教育セクターの関係者を巻き込んで立ち上がった、黒人、ラテンアメリカ系、貧困を経験した児童・生徒の学習効果を改善するためのエビデンスと解決策の開発を加速させるためのActionable Evidence Initiative。その目的は、生徒や家族の経験を直接形づくる幅広い指導者や実務者に、equity のためにエビデンスを構築し活用する力を与え、それを身につけさせること。

ご清聴ありがとうございました。  
katsuji.imata@blue-marble.co.jp

(参考)

「社会的インパクト評価」の2つの系譜  
(日本評価学会社会的インパクト評価分科会まとめ)

## 2. 「社会的インパクト評価」の2つの系譜（1）

日本で「社会的インパクト評価」と呼ばれるようになった一連の動きは、「民間セクター（金融側と事業者側）」と「公的・非営利セクター」の大きな流れ（2つの系譜）をたどることで主要な観点・論点が捕捉できると考える。

民間セクターの系譜におけるインパクト(*)		公的・非営利セクターの系譜におけるインパクト(*)
<ul style="list-style-type: none"> <li>企業活動から派生する負の影響を低減しようとするために投資を撤退させるダイベストメントは、1920年代ぐらいよりあり、今日の流れの源流となっている。</li> </ul>	<p>~1980年代</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>「よき企業市民」などのかけ声のもと、企業の社会貢献が取り沙汰されるようになった(1)。</li> <li>ダイベストメントの流れを汲み、NGOらの環境活動を受けて、ネガティブスクリーニング(武器、採掘産業のように社会的責任を果たしていないとみなされる事業会社を投資対象から除外する)として、広がっていった。</li> </ul> <p>(1)経団連ワンパーセントクラブ発足は1990年。</p>	<p>1980/90年代</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1980年代以降、公的セクターにおけるニュー・パブリック・マネジメント（NPM）の流れにおいて、開発援助などにおいて結果重視マネジメント（RBM: Results-Based Management）が言われる。結果志向、成果主義が奨励され、資金の出し手である公的機関に限らず、連携相手で資金の受け手となる国際機関やNGOなどの民間非営利組織もRBMの目に晒されるようになる。資金を効率的に活用して成果を出しているかが以前にも増して問われる。</li> </ul>

(\*) 2つの系譜における「インパクト」関連用語の定義や説明の例を参考1につける。

## 2. 「社会的インパクト評価」の2つの系譜（1）

日本で「社会的インパクト評価」と呼ばれるようになった一連の動きは、「民間セクター（金融側と事業者側）」と「公的・非営利セクター」の大きな流れ（2つの系譜）をたどることで主要な観点・論点が捕捉できると考える。

民間セクターの系譜におけるインパクト(*)		公的・非営利セクターの系譜におけるインパクト(*)
<ul style="list-style-type: none"> <li>企業活動から派生する負の影響を低減しようとするために投資を撤退させるダイベストメントは、1920年代ぐらいよりあり、今日の流れの源流となっている。</li> </ul>	<p>~1980年代</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>「よき企業市民」などのかけ声のもと、企業の社会貢献が取り沙汰されるようになった(1)。</li> <li>ダイベストメントの流れを汲み、NGOらの環境活動を受けて、ネガティブスクリーニング(武器、採掘産業のように社会的責任を果たしていないとみなされる事業会社を投資対象から除外する)として、広がっていった。</li> </ul> <p>(1)経団連ワンパーセントクラブ発足は1990年。</p>	<p>1980/90年代</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1980年代以降、公的セクターにおけるニュー・パブリック・マネジメント（NPM）の流れにおいて、開発援助などにおいて結果重視マネジメント（RBM: Results-Based Management）が言われる。結果志向、成果主義が奨励され、資金の出し手である公的機関に限らず、連携相手で資金の受け手となる国際機関やNGOなどの民間非営利組織もRBMの目に晒されるようになる。資金を効率的に活用して成果を出しているかが以前にも増して問われる。</li> </ul>

(\*) 2つの系譜における「インパクト」関連用語の定義や説明の例を参考1につける。

## 2. 「社会的インパクト評価」の2つの系譜（2）

民間セクターの系譜におけるインパクト		公的・非営利セクターの系譜におけるインパクト
<ul style="list-style-type: none"><li>グローバリゼーションの波を受け、特に発展途上国などでのスウェットショップ等の問題に対してCSR（企業の社会的責任）やトリプルボトムラインへの対応が問われるようになった(2)。</li><li>国内外で公的セクターの資金不足が大きな問題となった。国際社会においては、2002年のモンテレー開発資金会議を発端に、MDGs（ミレニアム開発目標）達成のために必要な開発資金は公的資金だけでは圧倒的に不足しており、これをいかに補充するかが大きな課題として浮上した。</li><li>ネガティブ・スクリーニングの流れを受けて、SRI（社会的責任投資）が広がった。</li></ul> <p>(2)CSRは経済同友会第15回企業白書（2003年）の中で記載された。</p>	2000年代	<ul style="list-style-type: none"><li>開発援助に限らず、国内でも地方自治体含め、行政機関の財源不足が深刻な問題として取り上げられるようになる。</li><li>NPMの結果志向から「社会的インパクト」や「インパクト測定」が取り沙汰されるようになる。公的機関に限らず民間助成財団等からの資金援助でも社会的インパクトが求められるようになる。</li><li>英国において、非営利組織のインパクト測定を支援する動きに勢いがついていったが、その最も大きな要因は、資金提供者からの要請だった。</li></ul>

## 2. 「社会的インパクト評価」の2つの系譜（3）

民間セクターの系譜におけるインパクト		公的・非営利セクターの系譜におけるインパクト
<ul style="list-style-type: none"> <li>財源の解決策は、2015年のSDGs（持続可能な開発目標）を含む2030アジェンダの成立へと向かう中で、山積する社会課題への対処には民間セクターの役割が重要という認識に集約していった。</li> <li>同時に、企業の側でも、トリプルボトムライン、統合報告書、CSRからCSVへ、パーパス経営などの動きや呼び声が起り(3)、企業による自発的な社会課題解決や新たな価値創出が説かれるようになっていった。</li> <li>民間セクターが社会貢献でも社会的責任でもなく本業で社会課題解決に参入するという時代は、資本市場の力を活用して社会課題解決を図る時代。そこでキーワードとして浮かび上がってきたのが「インパクト」。企業活動の中で生まれている正負の社会的・環境的価値を「見える化」するものであり、資本市場において活動の成否を判断する物差しとして流通する共通言語として「インパクト」は注目されるようになった。</li> </ul> <p>(3)マイケル・ポーターがCSVを提唱したのは2011年。</p>	2010年代	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本においても、こういった海外の動きの影響が現れてくる。英国で休眠預金制度が先行しており、これを参考にしようとしたことが飛び火を加速させた。</li> <li>2016年3月、内閣府共助づくり社会懇談会のもとに組成された社会的インパクト評価検討ワーキング・グループが報告書を出し、日本における「インパクト」や「社会的インパクト評価」の流れを作る大きな発火点となった。</li> <li>この報告書で取り上げられた「社会的インパクト評価」は、その後2018年に休眠預金等に係る資金の活用の成果に係る評価として実施しなければならないものと定められた。</li> <li>休眠預金等を活用していない場合でも「社会的インパクト評価」を活用する効用を検討するため、2016-2017年度にかけて、内閣府主導のもと各種調査や研修が行われ、多くの事例が報告された。「社会的インパクト評価」が休眠預金等の制度を超えて、広まっていった。</li> </ul>
<p>金融セクターにおいては、投融資対象となる事業や企業活動が生み出す環境的・社会的なアウトカムを定量・定性的に把握し、投融資の判断に組み込むことを「インパクト評価」と呼ぶようになってきた。これは評価学におけるインパクト評価とは異なるものである（参考2参照）。</p>	注記	<p>そもそもSocial Impact Measurementを「社会的インパクト評価」と訳したが、この流れにおいては結果の測定が主眼とされた。また休眠預金等活用においては、評価の目的について「評価結果を適切に予算や人材等の資源配分に反映することにより、民間公益活動を効果的・効率的に行うこと」の文言が見られる。（参考3参照）。</p>

## 2. 「社会的インパクト評価」の2つの系譜（4）

### 民間セクターの系譜におけるインパクト

### 公的・非営利セクターの系譜におけるインパクト

2020年代以降、様々な分野で「（社会的）インパクト」や「社会的インパクト評価」への関心が高まりつつあり、これを概念整理し、必要に応じて集約するニーズも高まっている。

- 今日、社会課題解決の担い手が多様化し、民間セクターの役割が大きくなるにつれ、市場メカニズムの論理（特に投資効果の考え）で社会的介入を評価しようとする機運が強まっている。これは公的・非営利セクターにおけるこれまでの流れと融合し、公的・準公的な資金活用においても、同様の論理が展開されるようになり、セクターを超えて要請されている評価の今日的あり方が「社会的インパクト評価」の呼び声になっている。
- この要請においては、評価基準や評価指標を一般化し、効果的な取り組みが市場メカニズムにおいて伝播・普及していくような仕組みを充実させていくこと、そしてそれが公的セクターにも波及していくことが志向されている。同時に一般化・標準化を志向することは、「インパクト」の個別性や独自性を評価すべきという姿勢と根本的に対立する矛盾を内包している可能性がある（参考4「インパクトの逆説」、スライド10参照）。